

学校での日本語・教科学習支援の報告 (後野国雄)

令和2年度、舞鶴市教育委員会との委託業務契約に基づき、舞鶴市内の小学校・中学校で児童・生徒の日本語学習支援、教科学習支援に当たっています。その一部を報告します。

今年度は、その支援対象となる外国籍児童・生徒の数は多く、小学校児童が6名、中学校生徒が4名となっています。そして、その国籍も今までと異なり、フィリッピン、ブラジル、パキスタン、中国と多様です。

小学校低学年では、「ひらかな」、「カタカナ」等から始めますが、中学年以上になると、「教科学習」で、日本語の教科書が理解できなかつたり、学習についていけなかつたりしますので、担任の先生とも連絡を密にしながら、その学習支援を行っています。

中学校では、高校進学への進路指導とも重なり、ある程度日本語が話せたり書けたりしても、教科学習が小学校と比較して一気に専門的となり、用語も内容も一層難しくなるので、その意味を英語等で説明しながら、指導に当たっている教師の得意専科・専門性を生かして、英語、数学、理科、社会、国語、音楽等の指導、援助を行っています。

今回は、そのような支援の中での児童・生徒たちの頑張る姿を紹介します。



1. A君 (中学校1年生、フィリッピン)

昨年6月に日本の小学校に転入。その時から日本語の「ひらかな」、「カタカナ」を学習し始め、本年度、市内の中学校に入学した1年生。日本語はすっかり上達し、話すことに関してはほとんど気にならない。しかし、中学校の教科学習で、教科書に書かれている専門用語や説明については、日本語での理解は大変難しい。そのため、両親は大変心配し、学校・教育委員会に教科学習での日本語を含めた支援を要請し、その委託を受けて、社会と数学を専門とする支援員(退職教員)を、京都北部国際支援ネットより、毎週3日間(毎日2時間)学校に派遣し、別教室にて支援に当たってきた。

本人は小学校では予想以上に日本語や教科学習ができたので、中学校でもできると思い、クラブ活動や友達との休日の生活を楽しんでた。しかし、私たちや両親の予想通り、1学期の中間・期末テスト、学期末評価では、小学校に比べて本人が思っていた程には成績が良くなかった。

これをきっかけに、「中学校の学習は、小学校の学習とは内容もスピードも相当違うんだよ。本当に、予習や復習をしっかりしないと、少くく日本語が話せるようになれたからといって安心してると、2学期の学習はもっとわからなくなるよ」と、話をし、両親とも懇談した。

この後、本人もこれを意識し始め、学習態度が変化してきた。そして、10月初旬の中間テスト前の予備テスト(50点満点)では、5教科のうち1教科以外すべて満点を取ったという。「先生、満点取れたよ」と、嬉しそうに、土曜日の私たちのネット教室での学習会に両親と一緒に来た時、報告してくれた。これには本当に驚いた。

数学でも社会でも、学習している内容が難しい。支援に当たっている井関指導員も言います。「今習っている歴史の学習は難しいです。飛鳥時代、奈良時代前後の歴史の学習ですが、645年の大化の改新、中大兄皇子、藤原鎌足、710年の平城京への遷都、大宝律令等々、難しい読み方の人名漢字や歴史漢字が出てきます。これは日本の生徒達でも理解するのは大変です。いわんや外国からきて1年少ししか生活していない生徒にとって、読むのも大変なら、その意味や歴史的背景を理解するのは本当に大変です。」

しかも、楽しみにしていたクラブに入り、多くの友人ができ、休日ごとにその友人たちとも外で遊ぶのを楽しんでいる。しかし、家庭で一定の学習をしなければ、どんどん学習に遅れが出てくる。それはすでに1年生の1学期末には明らかになりつつあった。そのことを前述のように本人や保護者と話し合い、中学校卒業後の進路も考えた上で、今から計画的にそれに向けて準備すること、家庭学習の必要なこと、支援に入っている時にもっと集中して学習すること等を話した。

彼もそのことを理解し、夏休みからは、学校で受けている個人授業だけでなく、私たちのネットが毎週土曜日等に別会場で行っている教科学習にも積極的に参加するようになってきた。そして、その結果、今回の社会科の小テストで満点を取ることができた。それを保護者とともに報告してくれた時の彼の嬉しそうな顔を見ると、今、日本語の指導に加えて、「教科学習」において、日本語支援を含む専門的教科指導・支援を行う組織の大切さを感じている。

直接指導・支援に当たっている井関・菅原指導員はもとより、この「KNISネット」に入会し、それぞれの立場で支援してくれている仲間たちに、大きな感謝を感じている。



2. Bさん（中学校3年生、フィリピン）

彼女は4年前に、日本で生活している母親のもとにやってきて、小学校に転入した。その時は、全く日本語は話せず、書けず、読めなかった。このため、支援に入ったときは、会話や、特に説明は、日本語ではできないので、英語でした。

「ひらかな」、「カタカナ」からの学習支援だったが、このような学習だけでは、小学校高学年の教科学習はどんどん遅れて、その内容についていけなくなり、中学校に進学した時には、更に学習の理解が難しくなる。そのため、担任の先生と相談しながら「ひらかな」、「カタカナ」を教えながら、その一方で算数や理科の学習の支援も行ってきた。

中学校では、むしろ、教科学習での日本語支援が中心になる。

例えば、3年生の理科では、現在、高校受験に向けて総まとめの学習や実力テストが行われる。元素の学習では、共有結合 (H_2 , H_2O , CO_2)、イオン結合 (HCl , $NaCl$, $MgCl_2$, H_2SO_4)、金属結合 (Cu , Mg , Fe , ……) や、イオン (Na^+ , Mg^{2+} , K^+ , Cl^- , OH^- , ……) やイオン結晶、金属結晶が出てくる。

数学では、2次関数として、 $y=ax^2$ のグラフや、それを利用した物質の落下や、自転車で乗っているときの平均の速さ (x) とブレーキをかけた時に止まるまでの距離 (y) : 制動距離との問題を解くという、大変難しい練習問題に今取り組んでいる。この問題では、用語も「空走距離」、「制動距離」、「停止距離」などという専門用語が出てくる。この意味を知り理解し、記憶することも必要。更に、なぜ、このブレーキをかけた時に止まるまでの距離がその時の平均の速さの二乗に比例して二次関数 ($y=ax^2$) になるのかという説明が必要。更には、この時の比例定数 a は何に関係するのか。それは自転車と走行している地面との摩擦力に関する説明をしていくと理

解できる。この理解が今、理科で学習している内容と関係してくる。

物体の落下距離(y)と時間(x)の二乗に比例して二次関数 $y=4.9x^2$ となるのも、なぜかと聞くと、彼女はしばらく考えて英語で答えた。

It's because of gravity. 「それは重力のためです」。

That's right. 「その通り」！

これも理科の学習と結びついて初めて理解できる内容である。

このような大変難しい学習をしている中で、嬉しい報告を9月の終わりにしてくれた。いつものように日本語・教科学習教室に来るなり、「先生、この前の小テストで満点取れたよ」と言ってきた。「何の教科で？」と聞くと、「理科のイオンのテストで、15問題で満点だった」と。「すごいね。クラスで何人くらい満点だったの？」「5人」。「すごいやん。良かったね。化学式やイオンの学習は本当に難しい。でもやればできる。次のテストに向かって頑張ろうね」というと、本当に嬉しそうな表情ですぐに次の中間テストに向かって取り組み始めた。

やはり、教えて「分かり」、「出来て」、「良い結果が出る」、というのが何よりも自信につながる。特に外国籍の生徒・児童にとって大切なのは、単に日本語の読み・書きができるだけでなく、学校での教科学習がどれだけ理解し、力をつけて、将来の進路保証につなげて行くこと、できるかが大切だなとつくづく思いながら支援を行っている。



3. C君（小学校低学年、中国）

本年度8月より支援に入る。「ひらかな」から始める。ほとんど日本語が読めない、書けない、話せない状況だった。

しかし、支援に入ってしばらくして、日本語と中国語との間で、大切な共通したことがあるのに気が付いた。それは漢字の共通性である。

例えば、「い」を教えて、「い」を使った言葉として「いぬ」を理解させるときに、絵を見せて理解させることもできるが、漢字で「犬」と書くと、彼は見ていて、しばらくして「分かった」と言う。また、「ね」の学習で、「ね」を使った言葉「ねこ」を理解させるときには、試しに「猫」と書くと、また「分かった」と言ってくれる。

もちろん、中国語と日本語では漢字に違いのあるものもあり、分からないと首をかしげるときもある。そんな時に役立つのが、次の写真のような翻訳アプリ。

10月の総務会で日本語支援報告をした時に、山田総務の方から、「外国語通訳アプリを持っているので貸してあげてもいいよ」という提案をいただき、早速お借りすることにした。日本語、英語、中国語を含め、外国語、数十か国語の会話通訳アプリで、本当に便利で助かる。英語なら私たちも少しは学習しているのである程度はできるが、中国語、スペイン語、ポルトガル語、更にウルドゥー語（パキスタン）などとなると、全く手に負えない。



このようなときには、通訳アプリは助かる。山田幸さん、ありがとうございました。大切にに使わせていただきます。そのうちに、私たちのネットとしても、外国籍市民の学習支援や交流等に必要で、安く購入できたらと考えております。

さて、小学校、中でも低学年の外国籍児童の日本語支援・指導で難しいのは、その日本語の「読

み・書き、話す」指導・支援だけではない。実は、学習に入る気持ち、学習中の態度、日本での学習のマナー等に慣れていくための支援・サポートが、担任の先生と密に連絡を取りながら、本当に大切なことだと感じる。

これは日本での、小学校に入学してきた児童への支援・指導と同じともいえるし、また、文化の違いからくるものとしての大切な支援でもある。時には、学習に参加できず、遊びたがったり、ふざけたり、学習に集中できなかつたりする。それをそのまま何の注意や指導もせず、担任と連携せず放置しておく、本人は許されるものと思ひ、その態度はどんどんひどくなり、ついには注意しても聞かなくなる。それは教師として経験してきた者ならだれでもわかる。

その点の注意をいつも払いながら、発達状況や国の文化の違いを理解しながら、担任と連携を取りつつ、学校や担任の一定の方針と合わせながら、集中した学習態度や、日本での学習のマナーについて、必要に応じて支援していくことが、日本語の支援とともに必要であることを特に強く感じている。



日本語支援に携わって（井関 強）

4月から小学2年生男子（C君）、中学1年生男子（A君）の二人の日本語支援に携わっている。

C君は、両親とも中国籍で父親の仕事の関係で昨年度冬に日本に来たが、新型コロナウイルスの影響で学校が休校となり、その後5月に舞鶴に引っ越してきた。ほとんど日本語を理解できない状態でのスタートだった。親も日本語はあやふやで、初対面の時、後野さんが日本語支援の説明をしても十分に理解できず、漢字での筆記（漢字にすると理解しやすい）により説明をした。日本語支援も漢字を交えながら行っている。今、ひらがなの指導を終え文章を読み始めたところである。

A君は、小学6年生の時フィリピンから日本へ来て、1年半がたつ。日本人である父親を通じて日本語理解も進んでいる。姉は、KNISネットの支援により今年度日星高校へ進学した。A君は、フィリピンで英語教育を受けているので、英語はたいへん得意であり先日は英語検定準2級（1次）に合格した。日本語も昨年度の支援によりほぼ理解はできるようになっている。今、漢字検定5級の勉強と社会科を中心に支援をしているが、5級の漢字書き取り、読みでだいたい6～7割程度正解ができる状態である。社会科については、地理では地名が読めなかつたり、歴史では昔の人名や言葉の意味（例えば、中大兄皇子とか冠位十二階など）の理解が困難な状態である。

二人に共通していることは、明るいこと、日本語がわからなくて落ち込むことがないこと、意欲的に前向きに学習に取り組むことである。困難な環境に身を置きながらも日々明るく生活できているところが素晴らしい。そういう姿を見ると、私も少しでも力になりたいと彼らの元へ出向くのである。

日本語を使う機会の少ない子どもたち（安田達彦）

◎中学3年生女子（Dさん） ブラジル籍

英語・国語の教科指導

- 英語では、現在3年生で、高校受験を前に、中間テスト、単元テストを重ねて、50～60%の点数が取れるまでになってきている。
- 国語でもよく頑張っているが、3年生の学習ともなるとなかなか難しい。取り組みば、伸びる課題にしていた日記が、書くことに抵抗感もあるのか、取り組めていない。

◎中学3年生男子（E君） ブラジル籍

本年度春先に来日。ほとんど、ひらかな、カタカナから取り組み始めた。現在、小学校2年生の漢字の学習中。160文字中100文字ほどマスターできている。学習直後に行う小テストは、ほとんど満点に近く、よく頑張っている。しかし、それ以前に学習した漢字についての定着がなかなかできず、ほとんど覚えられていない。家庭で日本語を話したり聞いたりできる環境になく、学校外では日本語に接する場がないのが大きく、彼の日本語の習得の機会の欠如につながっていると考えられる。

やはり、外国籍児童・生徒にとって、家庭を含めて日常的にどれだけ日本語を聞いたり話したりする機会があるかは、ある面で決定的とも言えるをつくづく考えさせられる。



外国籍市民への日本語支援の開始

舞鶴市内にも、日本語の十分話せない、書けない、読めない外国籍市民の方がおられます。私たちの舞鶴市教育委員会との委託事業契約の中で支援に入っている児童の保護者の中で、大変強く日本語を学習したい希望を持たれておられる父親がおられ、支援を開始した時から、児童の支援の横で自分も一緒に日本語を学習したいと希望されてこられた方がおられました。

しかし、児童は毎日学校で日本語に触れる機会があり、週に3日間ほど私たち支援員のサポートのもとに日本語の学習ができます。しかし、そのお父さんは、会社勤めをしながらの自分の子どもの横での日本語学習では、学習の進み具合が異なってきます。また、この方は、母国のブラジルでは教師をされており、将来は日本で母国語と日本語を使った仕事に就きたいと熱心に日本語を習いたいと願っておられます。

英語も話されます。それを私たちは聞き取り、それでは、そのお父さんの願いを何とかかなえるために、2交代制、3交代制の仕事の合間を縫って、調整のつく時間帯に日本語の支援に入ることを約束しました。そして、数か月前、総務の井本精一さんを中心にして複数で日本語の学習支援に入りました。仕事の合間をぬっての「ひらかな」からの学習ですから、すぐには進みませんが、本人さんもその点はよく自覚されていて、「day by day」でゆっくりでもいいから粘り強く学習して必ずマスターしたいと願っておられます。今のコロナウイルスの終焉しない状況の職

場の中で、3交代、2交代制の勤務という外国籍労働者の働く条件は本当に大変だなとつくづく考えさせられます。それだけに、井本精一さんともいつも話していますが、彼の状況に合わせながら日本語支援し、彼の夢の実現に向かって少しでも力になれることが、この京都北部国際支援ネットの意義ではないかなと思っています。



教えることのむずかしさ（井本精一）

日本語支援を始めて、三ヶ月になります。当初は、私自身の母国語を教えるのだからと、タカをくくっていました。しかし、自分が知っていることと、人に教えることとは、全く別だという真実に直面しました。私も英会話を学習している訳ですが、まさに逆の立場になって、初めて「人にものを教える」ことのむずかしさが胸にしみてわかりました。

生徒のYさんは、日本に来て早や二年が過ぎていました。故に、日本語もそこそこしゃべれるので安心してしまったのかもしれませんが。英語でのやりとりも、とても楽しいので、「楽勝！！」と勝手に思い込んでしまったのです。つまり、英会話教室で本を読んで判った気になるのと一緒で、実は、相手にとっては、あまり身につけていなかったのです。これは、私にとって少なからずショックでした。

週に一回のレッスンで最良の方法を、改めて考え直す必要性を痛感した次第です。ここで、もう一度、仕切り直しです。後野先生のアドバイスを受けながら、着実に、かつ確実に、日本語（ひらがな）を習得できる方法を、今後も探りながら進めていきたいと考えています。

井本精一さんの日本語支援

先に紹介しましたが、この方は3世、ブラジルの大学を卒業後、小学生から高校生対象の学校で教師として2年間勤めました。日本と比べて給料は極めて低いので、日本の親戚を頼って舞鶴に来て、現在、ある工場長として働いています。しかし、勤務は2交代制、3交代制と厳しいので、いつか母国語のポルトガル語とともに、2ヶ国語を使った仕事をしたいと思い、日本語の学習に励んでいます。

彼の娘さんは現在、舞鶴市教育委員会からの委託業務でKNIS-netより支援員が毎週三日間、1年間日本語支援に取組み、「読み」、「書き」、「話す」ことが上達し、来年にはきっと、もうサポートが必要ないと思えるほどまでになりました。

そのお父さんにも、この写真の様に、私たちのネットが日本語支援に取り組んでいます。



夜の8時頃に仕事場に入り12時間の2交代制の勤務を終えて、その後、朝に帰宅し、仮眠してからの日本語の学習です。疲れの取れない中ですが、言われます、「私、日本語、勉強したい。時間がない。でも Day by day でもいい。諦めない」と。素晴らしいと思います。

聖母訪問会での草刈



8月9日（日）、外国籍児童・生徒の日本語・教科学習支援会場としてお借りしている「聖母訪問会」の会場周辺の雑木も相当茂ってきましましたので、教室の清掃も兼ねて、会員で草刈、雑木除去、教室の清掃を数か月ぶりに行いました。併せて、広い敷地内の農園も櫻井総務に小型農機具を持参して頂き、耕作していただきました。急な取り組みでしたが、総務（理事）、会員、日本語支援対象者、その保護者を

含めて約16名の参加者を得、2時間ほどの作業で、広い敷地内、及びその周辺の垣根の刈込、そして教室の清掃が行われ、すっかりきれいになりました。暑い中でしたが、参加者の皆様、本当にお世話になりました。会場は、いつも教会のシスターたちが協力者たちのもとに定期的に草刈をされておりますが、春から夏にかけて雑草の成育は早く、その草刈は大変です。また、広い農園内で茄子やキュウリ、ジャガイモを含めいろんな野菜を育てておられますが、失礼ながら高齢のお方が多い中で、



鋤等で耕作されておられます。私たち、会員の中には農業に携わる者も少なくなく、その仲間たちにとって農機具は必要品で当然、所有しております。農機具を使えば、お借りしている教室周辺の畑の耕作はさほど手間はかかりません。そのことを申し出ましたら、シスターたちに大変喜ばれまして、この日、草刈、雑木の除去、道路側の垣根の手入れとともに、畑の耕作もさせてもらい、シスターたちに大変喜んで

いただきました。

私たちも、この教室を無料で毎週3～4日間、外国籍児童・生徒の日本語や教科学力支援のために使わせていただいております。本当に感謝しております。

参加者の皆さん、暑い中でしたが、お世話になりました。

なお、その後、10月に入り、秋の野菜を植えるため、畑の耕作を依頼され、再度、櫻井総務に畑の耕作をお願いしました。きっと次の野菜をシスターたちが植えられることだと思います。



左上の写真が、毎週、休日（土、日）にこの会場を借りて行っている教科学習支援の授業風景です。それ以外は、当日の教室周辺の敷地の草刈り・伐採風景です。

会員さんからの心のこもった寄付金

私たち、京都北部国際支援ネット（KINES-Net）は、昨年の9月の発足以来、外国籍児童・生徒・青少年、成人への日本語、教科学習支援、その家族からの相談（子育て、滞在ビザ、法律相談）、翻訳・通訳、その人達との交流・活動等に取り組んできました。

当然、どの団体でも取組には経費がかかります。活動に参加していただいている皆さんには、基本的に委託事業以外では、交通費等を含めて無償のボランティア活動として参加していただいています。しかし、日本語支援や教科の学習支援では、資料や参考書の購入、その他の一定の経費が必要です。

私たちはその自主的な取組に関する経費についてはどこからの財政的支援も受けず、40名近い会員の皆さんの1年間の会費（3,000円/1人）をもとに取り組んでいます。

嬉しいことに、このような私たちの取組を理解して、家族ぐるみで会員として参加くださっている方が何組かあります。

その中で、今回、親子で会員になっていただいている娘さんの方から寄付金を頂きました。会員のお母さんからその訳をお聞きすると、そこには娘さんが外国に留学された時に同じように経験された深い思いがあつてのことだとのことでした。有り難く頂くと共に、私たちの活動と深く共感するところがありますので、その思いについてもお母さんにお聞きしてここに紹介させていただきます。

寄付していただいた方は、水口一姫（ミナグチ・カズキ）さん（21才）と言われる会員さんです。

彼女は高校卒業後、英語研修を目的にカナダのバンクーバーに行かれ、1年4ヶ月滞在されました。その後帰国して日本で働いてお金を蓄え、次はオーストラリアのアデレードに行かれましたが、コロナのパンデミックが心配だったので、1年後の今年3月23日、帰国されました。そのような外国生活の中で、教会にあるカフェでボランティアとしてフリー（無給）で働きながら、英会話教室へフリー（受講料なし）で参加でき、食事もフリーで食べることができ、さらに週に1回は食材も無料でもらえたそうです。

このように外国生活する中で、Donation（寄付）の団体に本当に助けてもらったという経験を持たれ、相互に支援し合う大切さを痛感されたそうです。

その大切さを知っておられるので「私も donation の団体に本当に助けてもらったので、経済的、社会的に困難な外国籍市民を支援する団体、KINES-Net に協力しようと思っている」と言っ、会員にもなつていただき、今回も寄付を頂きました。

水口一姫さん、有り難うございました。寄付金は、日本語や教科学習支援の教具や教材購入に使わせて頂きます。

早速、教室で使う、教具や教材の一部に使わせて頂きました。ありがとうございました。

（文責：滝花、後野）
この「つなぐ」へのご意見、投稿等は下記へお寄せ下さい。
t.takihana@knisnet.com もしくは t.takihana@nike.eonet.ne.jp
後野国雄 携帯 090-8887-5921 滝花 自宅 0773-44-1734